

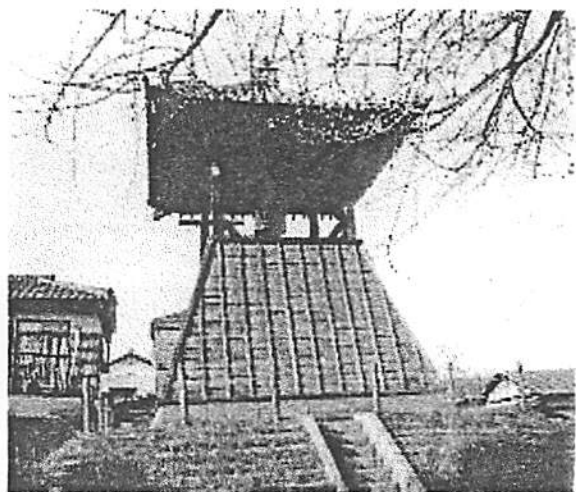
平成26年3月28日(金)

第447回 史跡めぐり

春の城下町いわつき・日光御成り道



運 香 館



時 の 鐘

NPO 法人 越谷市郷土研究会

コースガイド

第447回 史跡巡り

春の城下町いわつき・

日光御成り道

日 時 平成二十六年三月二十八日(金)

集 合 越谷駅東口広場 午前八時二十分

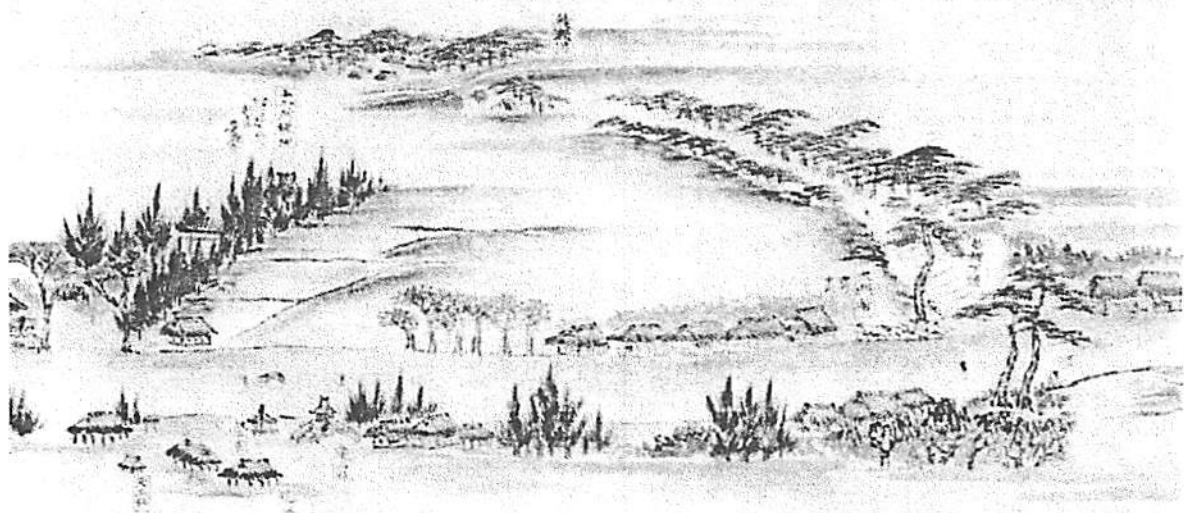
参加費 二、〇〇〇円 (交通費・昼食代・拝観料等)

案内者 副会長・渡辺和照 理事・坂本誠一郎

参事・山本希八・実行委員(藤田佑子・芳賀登美子)

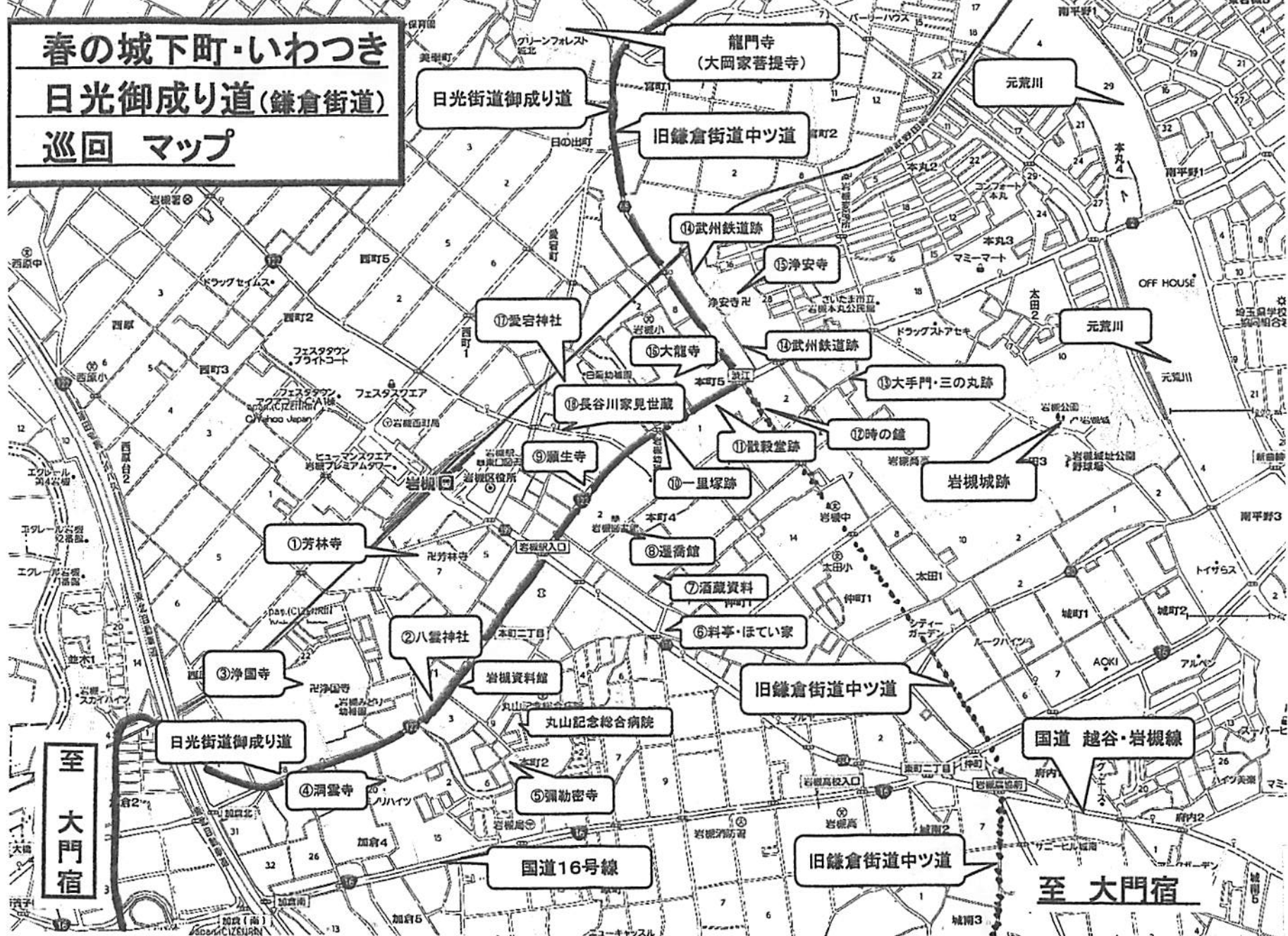
越谷駅 = 春日部駅 = 岩槻駅
— ①芳林寺—②八雲神社—③
浄国寺—④洞雲寺—⑤彌勒密寺
(岩槻大師・四国八十八箇所お砂
踏み/お焚上げ)—⑥昼食・料亭
「ほてい家」—⑦酒蔵資料館—⑧
遷喬館 —⑨願上寺—⑩一里塚
跡—⑪郷学戩穀堂跡—⑫時の鐘
—⑬広小路—大手口・大手門跡・
三の丸—⑭武州鉄道跡—⑮浄安
寺 —⑯大龍寺—⑰愛宕神社—
⑱長谷川家見世蔵— 岩槻駅—
越谷駅

帰着予定 16:30ころ



日光御成り道道中絵図(岩槻)

春の城下町・いわつき
日光御成り道(鎌倉街道)
巡回 マップ



日光街道御成り道

龍門寺
(大岡家菩提寺)

元荒川

旧鎌倉街道中ツ道

⑭武州鉄道跡

⑮浄安寺

⑪愛宕神社

⑯大龍寺

⑭武州鉄道跡

元荒川

⑬長谷川家見世蔵

⑰大手門・三の丸跡

⑨願生寺

⑪獸穀堂跡

⑫時の鐘

岩槻城跡

⑩一里塚跡

①芳林寺

⑧遷喬館

岩槻城跡

⑦酒蔵資料

⑥料亭・ほてい家

旧鎌倉街道中ツ道

国道 越谷・岩槻線

②八雲神社

岩槻資料館

丸山記念総合病院

日光街道御成り道

④洞雲寺

⑤彌勒密寺

国道16号線

旧鎌倉街道中ツ道

至 大門宿

至 大門宿

「いわつき」の歴史

岩槻周辺の地形は、台地と海が複雑に入り組み、起伏に富んでいたものと考えられています。太古には、海が台地まで迫っていたことを示す「貝塚」跡が、『国指定史跡の真福寺貝塚』に、更に弥生時代の集落跡が、馬込、諏訪山遺跡など、谷津と言われる地形の場所に残っています。平安時代になると武士団が現れ、岩槻周辺は武蔵七党の一族『野与党』の活躍の地となり、その勢力は戦国時代まで続きました。鎌倉時代には、鎌倉から東北地方へ至る「鎌倉街道奥大道」が通り、要衝の地としてその重要性を増してきました。『岩付』という地名が文字として現れるのは、室町時代に入ってからで、1380年の合戦を記録した古文書に初めて明記されています。群雄割拠の戦国時代に入ると、関東公方（山内上杉氏）は、古河公方（足利氏）との防衛拠点として荒川（現在の元荒川）沿いに『岩付城』を築いたのは、1457年と言われています。『岩付城』の築城については諸説がありますが、1567年三船山合戦で太田氏資が戦死するまでは、代々太田氏が城主を務めました。その後は、北条氏が支配するようになりました。更に時代は進み、豊臣秀吉は九州を平定するや関東攻略を目標しました。これに対して、『岩付城』の周囲に防御の為の『大構え』と言われる高さ約4m、幅約8m、全長8kmに及ぶ土塁を整備したのは1587年でした。1590年、秀吉は小田原城を包囲するとともに、関東一円の支城を殆ど攻め落とし、『岩付城』も落城しました。間もなく小田原城は落城、北条氏は滅亡しました。その後、領地替えをした徳川家康

が関東を治めることになり、それに伴い、以来徳川家の親藩・譜代が岩槻城主を勤めるようになりました。

江戸時代に入り日光東照宮が造営されると日光御成道が整備され岩付は更に城下町、宿場町として繁栄しました。

また、氾濫を繰り返してきた「荒川」や「利根川」、「綾瀬川」を幾度もの大工事によって流れを替え、洪水防御と新田開発を促進し、急増する江戸の人口に対して食糧の供給基地としての役割を果たすようになりました。

江戸の長きに亘る国家の安定は、岩槻のみならず各地にいろいろな文化を生み発展させてきました。岩槻の代表的な伝統産業に、

人形と組み紐があります。人形の誕生には、地場産の桐の粉と日光東照宮を作った宮大工の技が寄与したといわれています。

また岩槻には歴代城主による手厚い庇護のもと、岩槻総鎮守の久伊豆神社（宮町）をはじめ数々の由緒ある神社仏閣が、城下町としての歴史を今に伝えていきます。

岩槻を表現する言葉に「岩槻に過ぎたるものが二つあり、児玉南柯と時の鐘」があります。「児玉南柯」は、遷番館という私塾を開き子弟の教育に力を注ぎました。後に遷番館は藩校になりました。

「時の鐘」は、1671年岩槻城主第7代阿部正春が渋江口に設置し、後に改鑄を経て現在に伝わるものです。その美しい音色は、今でも区民に親しまれています。

明治維新の頃の岩槻藩は、官軍の進入に対して「勤皇一途を誓い、国力相応の御用を勤めたい」と上申し、治安維持のための兵を差し出すなど、大きな混乱はなかったと伝えられています。

その後の廃藩置県においても岩槻が如何に中心的な「まち」であったかを語るに相応しい話として、府県統合によって「埼玉県」の県庁所在地を「岩槻町」に定められたことです。（明治4年1871年）。

例え40日間の短い期間ではありましたが、芳林寺の本堂に仮庁舎が設けられたと記録に残っています。しかし、適切な建物が無かった為浦和町の旧浦和県庁舎に移され、以降、浦和町が埼玉県の県庁所在地になりました。

終戦後、地方制度は原則的に国家の統制からはずされた為、各自治体は財政危機を深めることになりました。この窮乏や財政、税制面から小規模町村を救うための合併による改革案「シャウプ勧告」を受けて制定された「町村合併促進法」によって、昭和29年5月岩槻・川通・柏崎・和土・新和・慈恩寺・河合の1町6村が合併し新しい岩槻町となり、昭和29年7月埼玉県内で13番目になる「岩槻市」が誕生しました。

奇しくも全国で13番目に政令指定都市となった『さいたま市』と「岩槻市」は合併協定を経て、岩槻市制50周年の節目の年の平成17年4月1日に合併しました。これにより人口118万人の新生「さいたま市」となり、岩槻は『さいたま市岩槻区』としてスタートしました。

区民がこれまで培ってきた「人形のまち」「城下町」としての歴史や文化、そして豊かな自然等固有の貴重な財産は、「さいたま市」が目指す「さいたまらしさ」を醸成するために一役を担うものと期待されています。

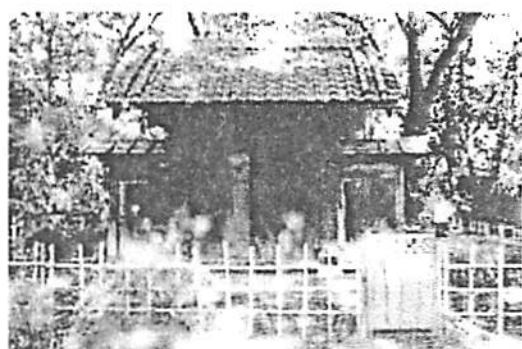
● いわつきの歴史年表

別紙18ページ参照願います。

● 岩付城（岩槻城）について

岩槻城は室町時代末に築かれた城郭です。築城者は、①大田道灌説 ②父の太田道真説 ③そして後に忍（現行田市）城主となる成田氏（城主頭泰の父、正等）とする説など様々です。

16世紀の前半には太田氏が城主となりましたが、永禄10年（1567）三船山合戦（現千葉県富津



岩槻城の裏門

市)で太田氏資が戦死すると小田原城の北条氏が直接支配するところとなりました。しかし、天下統一を目指して関東への進出を図っていた豊臣秀吉と対立。天正18年（1590）5月20日からの豊臣方の総攻撃を受けた岩槻城は2日後の22日に落城しました。同年、豊臣秀吉が北条氏を滅ぼすと徳川家康が江戸に入り、岩槻城も徳川の家臣高力清長が城主となりました。

江戸時代になると岩槻城は江戸北方の守りの要として重要視され、幕府要職の譜代大名の居城となりましたが、明治維新後に廃城となりました。城の建物は、各地に移され土地は払い下げられて、凡そ400年の永きにわたって続いた岩槻城は終焉の時を迎えました。岩槻城が築かれた場所は、現在の市街地の東側で、元荒川の後背湿地に半島状に突き出た台地の上に、本丸、二の丸、三の丸などの主要部が、沼地をはさんで北側に新正寺曲輪が、沼地をはさんだ南側に新曲輪がありました。主要部の西側は堀によって区切られ、さらにその西側には武家屋敷や城下町が広がっていました。また城と城下町を囲むように大構（おおがまえ）が造られました。

現在では城跡の中でも南端の新曲輪・鍛冶曲輪跡（現在の岩槻城址公園）が県史跡に指定されています。どちらの曲輪も戦国時代末に北条氏によって造られた出丸で、土塁・空堀・馬出など中世城郭の遺構が良好に残されており、近年の発掘調査では北条氏が得意とした築城術である障子堀が見つかっています。

※別称（浮城・竹東城・白鶴城）

※歴代城主は17ページ参照

● 城下町岩槻

鎌倉時代から室町時代頃の岩槻は、奥大道（おくだいどう）と呼ばれる鎌倉街道の一つが元荒川（当時は荒川の本流）を渡る地点にあたっていました。幹線道と水上交通路でもある大河が交差する岩槻の地には、城下町の成立以前に町場が形成されていた可能性がありません。

戦国時代になると、交通の要衝でもある岩槻には岩槻城が築城され、城を中心とする都市形成が本格化しました。この頃には、久保宿・富士宿・渋江宿などが文献資料に現れ、市町（いちまち）などの町場の形成が進んでいました。城下町岩槻の成立です。そして戦国時代の末、天正15年（1587）頃には、城下町の周囲に大構と呼ばれる土塁が築かれ、岩槻城と一体化し、城下町が確立しました。江戸時代を迎えると、近世の身分秩序に基づき城下町が再編され、大手門外の一帯を中心に武家地（武家屋敷ゾーン）、街道沿いには町屋（商工業ゾーン）が配置されました。また、旧来の街道は日光御成道として整備され、城下町は宿場ともなりました。

武家地内は諏訪小路、裏小路などの街路名と呼ばれ、生垣や板塀で区画された広大な武家住宅が形成されました。大構の出入り口と、武家地・町家の出入り口は「口」と呼ばれ、門・木戸が設けられました。時の鐘は、寛文11年（1671）、岩槻城主阿部正春が、渋江口に設置したものです。

町屋では、「うなぎの寝床」などといわれる細長い区画に区分され、さまざまな業種の商家が通りに面して店を構えていました。町場の中心である市宿町では、戦国時代以来の六斎市（毎月六回開かれる定期市。市宿では一と六の付く日に開かれた）も開かれ、特産の岩槻木綿の取引などで賑わいました。

● 岩槻黒奴

日本三奴

岩槻黒奴

・江戸時代から「日光の赤奴・甲府の白奴そして岩槻の黒奴」が日本三奴とされてきました。岩槻の黒奴は久伊豆神社の神幸祭、神輿渡御の先に立ち岩槻城内、また城下町を練り歩いたものです。

・岩槻市史によると、町の若い衆八十人ばかりが粋な黒木綿の半纏着て、身振りよろしく練り歩き、金紋先箱、大傘、御弓組、毛槍り、神輿、かご、警護が並び、その後手古舞いが続き各町内の山車を手に引かせ大勢の稚児が木槍り音頭をやったとされています。

・岩槻藩主大岡家（1756年）の日記に「神社祭礼の神輿渡御にはその行列先頭に6人の黒奴が供奉（くぶ）すると書かれていたり、1856年、桶川宿の白鳥翁が祭りの様子を黒奴と表記、句を残していたりします。

● 芳林寺

・当寺は、釈迦如来を本尊とし、静岡県藤枝市洞雲寺の末寺にして、覚翁文等禪師（洞雲寺四世）の開山による禅刹（曹洞宗）です。

・境内墓地に「応永（1394～1428）・享徳（1452～15）年号の墓石があることから、室町時代の初期から当地に寺院が

あったことがわかりますが、所伝によると、比企郡松山城にあった大田道灌公が延命地藏尊を尊信し、松山城を築くにあたり堂宇を建てこれを祀り太平山地蔵堂と称したが、その後、文明18年（1486）道灌公が主君・扇ガ谷上杉定正に謀殺されるや、その遺骨（遺髪ともいう）を堂側に埋葬して、香月院殿春苑道灌大居士と諡したのでした。



・しかし永正17年（1520）火災に罹り烏有に帰したため、その後、曾孫太田三楽斎資正公は、居城であった大田道真正公・道灌公父子が築城した岩槻城下の当地にこれに移し、再建全く成って大鐘を掛け宝殿が空に聳えたという。そして50石を寄進され常住の資に充てられました。

・また、大田道灌公が相州伊勢原にあつた主君・上杉定正の館で謀殺された時、父の道真公と道灌公の養子・太田資家公（岩槻城主）が伊勢原に行き、道灌公の遺髪と分骨を貰い受け、越生町の龍穩寺と当芳林寺に埋葬したとも伝えられています。

・岩槻城主・太田氏資公の母公が、禅門に帰依して芳林妙春尼と号していたが、永禄10年（1567）逝去するにおよび陽光院殿芳林妙



春大姉と諡し、開基となしてその法号に因み寺号を芳林寺と改めました。

・氏資公は北条氏康の娘(長称院)を妻に迎え、小田原北条氏に属していたが、永禄10年の里見氏との上総三船山の合戦で殿軍を務め討死したので、その遺体を当寺に埋葬し、太崇院殿昌安道也大居士と諡しました。

・天正18年(1590)徳川家康公関東入国に伴い、高力清長公が岩槻城主に封ぜられるや当寺の荒廃しているのを歎き大修理を加え復興しました。

・そして嫡男・高力正長公が慶長4年(1599)卒した時、当寺に葬りました。この間いくばくもなくして火災に遭い堂宇悉く灰燼に帰しましたが、高力忠房公がこれを復興造営しました。

・それ以来年月を経て、またもや文化8年(1811)焼失し、現在の本堂は天保12年(1841)再建したものであります。

・明治4年(1871)廃藩置県となり、埼玉県庁が一時岩槻に置かれた際、当寺が一部仮庁舎になったとも伝えられています。

●ご参考Ⅱ「応永年間」について

・一年号(元号)の期間で史上①番の最長は、『昭和』②「明治」③が「応永で35年間」です。

・最短は、①朱鳥の1.5ヶ月 ②暦仁の2カ月余り ③天平感宝の3ヶ月

・特にこの応永年間の内10年間余りは、国内戦乱が途絶え「応永の平和」と言われています。この時代は室町将軍三代足利義満から義持・義量に到る時代です。越谷で同時期の出来事は①中町浅間神社の懸け仏②大沢香取神社の創建③蒲生久伊豆神社創建です。

・元号の総数は231(北朝を含め247)。また元号の表記は、2文字ですが、なぜか5つの元号だけが4文字です。

●八雲神社(元市神社)

・室町時代末期の永禄3年(1560)に岩槻太田氏の家臣勝田佐渡守が、当地に「市」を開設した時の市の守護神を祀った社で、江戸時代には牛頭天王社と称されていましたが、明治になって八雲神社と改称しました。祭神は、商売の神、火



防の神である素戔鳴尊が、祀られています。風土記稿には、古事記にみる素戔鳴尊の「夜久毛立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」の夜久毛(八雲)にちなんで名付けられたと言われています。近年まで毎月1と6の付く日に「六斎市」と呼ばれる「市」が開かれていましたので、土地の人はこの神社を通称「市神様」と呼んでいて、前の通りを現在でも「市宿通り」と呼んでいます。

・岩槻まつりの夏祭りも、この神社の祭礼に起源があります。

●浄国寺

浄土宗の寺院。佛眼山英隆院浄国寺と称し、本尊に阿弥陀如来が祀られています。天正15年(1587)岩付城主大田(北条)氏房の開

創にかかる古刹で、徳川家康が深く帰依していた惣誓清巖上人の開



山と伝えられています。元禄年間に、堂宇が焼失したため寺宝の仏眼舍利を江戸で開帳し、その際の賽銭を以って宝くじを買ったところ、連続して当り、直ちに再建の資金を得ました。これにちなんで、巾着3個を連ねて「福利紋巾着」と称し、寺の定紋としたと言われています。「梅檀

林」の大きな扁額を掲げる唐破風門、境内を庄するような本堂等、往時を偲ばせる雰囲気があります。

・当山随一の寺宝は、釈迦如来左眼の仏眼舍利宝塔(非公開)があります。その他、境内にある唐門は、家康より下賜された元駿府城の門です

・江戸時代には関東18壇林に定められ、また貴重な資料として「浄国寺日鑑」(埼玉県指定文化財)も保存されています。

・境内には徳川家康に献上された「御茶ノ水」の井戸も残されています。

・院内には、岩槻三代目城主阿部家の墓・將軍家光公が薨去の際に殉死(追腹を切った)阿部家第2代藩主老中阿部重次室の供養塔もあります。



・岩槻藩阿部家の初代藩主、阿部正次の父は、鳩ヶ谷藩主阿部正勝で、正勝は家康が今川の人質になった際、近習として仕えた1人(正勝の外、石川数正・鳥居元忠ら7人ともいわれている)です。またこの阿部家は、後に備後福山藩に転封し、江戸幕末老中首座阿部正弘へと続きますが、徳川15代を通じ延べ175人を数えた老中のうちに実に本分家合わせて12人の人材を最多輩出し突出した家系であります。

・参道にある青面金剛像は、中山正義氏が1988年に存在を発表



された「岩槻型青面金剛像庚申塔」の71基中の2基です。

この岩槻型の庚申塔の特徴は、①「六臂」の像は、一般的には、中央の(第1手)の印や持ち物の違いで、

「合掌型」と「剣人型」に分類されますが、この分類にあてはまらない「合掌型でありながら人身(シヨケラ)をもっている」②「邪鬼」が横に臥さずに正面を向く③「三猿」は、横向きでなく全てが正面を向いています。

※後刻訪問の大龍寺にもございますので、そちらとも対比してご確認ください。

・この71基の造立年代は、元禄元年(1688)〜享保19(1734)とされています。

・この岩槻型庚申塔は、越谷市内にも4箇所存在しています。
 ・尚、当会の秦野秀明氏は越谷市内には、岩槻型庚申塔の亜流ともいふべき、①「合掌型」で且つ「人身（シヨケラ）」を持ちながら、②「邪鬼」が横に臥して正面を向き③「三猿」は中央の猿以外の左右の猿が正面を向いていない、2基の青面庚申塔が存在することを24年越谷市民文化祭で、ご発表されました。
 (注) 詳しくは、文化祭発表資料をご参照願います。

● 洞雲寺

・当寺は、曹洞宗に属し、岩槻城主太田資頼公が、越生町龍穩寺第9世布州東播禪師を招いて開いたと言われています。
 ・宝永年間(1704~10)に山門以外の堂宇は焼失しました。山門は、幾度かの修理をしています。当時の面影を伝えています。

● 岩槻大師(彌勒密寺)

・光岩山・釈迦院・岩槻大師彌勒密寺と称し、くしくも真言密教の宗祖弘法大師空海さまのご誕生の年、光仁天皇の宝亀5年(774)の草創と伝えられています。
 ・開山第一世開成和尚は、光仁天皇の第一皇子、桓武天皇の兄君にあたられ、お釈迦さまと同様出家し諸国を巡り修行されていた。当岩槻の里に立ち寄った際は疫病が流行しており、開成和尚は各家で病氣平癒の祈禱を続けられ里人を救いました。

岩槻の地でも一番古い由緒ある真言宗の寺院です。

・その後時移り、平城天皇の大同2年(807)弘法大師御巡錫の折り当地を通りかかり、御本尊となる大日大聖不動明王を始め、五大明王の御尊像を刻まれ、五大力尊として安置され、隆盛を極めました。

・以来幾多の出来事に遭いしも、鎌倉中期後嵯峨天皇の寛元3年(1245)北条重時の外護を得て、鎌倉一の鑄物師、椎名伊守藤原吉

次鑄造の梵鐘が寄進された。



・鎌倉執権北条時宗の時代、文永の役(1274)・弘安の役(1281)と二度に亘る蒙古軍の来襲を受けしも、時宗縁の深い当山に元軍撃退天下泰平国家安泰を祈願し、その願い成就により時宗持念仏の妙沢筆の不動明王など三幅の掛軸を寄進され感謝の意を示さる。
 ・家康が江戸入城後はその北方にあつてこれを守った。家康が没し東照大権現として日光に葬られた後、後本尊のお不動様が動き「北向の不動」となり、「北向不動」「喜多向き不動」として人々から親しまれました。

・江戸・明治と寺小屋を開設し、学問を指導、明治5年寺小屋の全廃、学令発布により明治25年まで彌勒寺学校として幾多の人材を世に送り出し、岩槻尋常高等小学校の前身となりました。
 ・本堂内地下仏殿には、四国88ヶ所が祀られており、お砂踏みとして親しまれ善男善女のお遍路巡拝の道場としてその名は全国広く伝えられ、参拝者が絶えません。

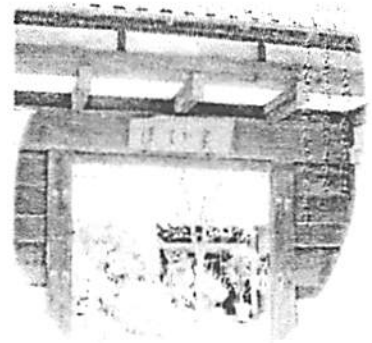
● 岩槻郷土資料館

・昭和57年5月1日岩槻警察署旧庁舎を利用して開館。この建物（昭和5年建設）の内外には、大正期の建築様式の面影を留めています。天井の梁や窓等に見られるアーチ状の造形やアールデコと呼ばれる装飾が随所に施され、警察署庁舎としての機能性と装飾を一体化した建物のデザインがみられます。

- ・展示については、次の三つの柱で構成されています。
- ① 大昔のくらし・・・国の史跡に指定されている真福寺貝塚をはじめ、岩槻から出土した土器や石器などを展示。
- ② 岩槻のあゆみ・・・岩槻城に関する資料、岩槻藩の藩校であった遷番館とその創立者児玉南柯に関する資料などを展示。
- ③ くらしの道具・・・岩槻近郊の農村や城下町における生活の様子や使われた道具などを展示。 ※岩槻八景の絵所蔵・展示中

● ほてい家（ご昼食）

岩槻は徳川時代、日光御成街道の要衝として栄えた城下町です。



ほてい家はこの江戸の頃に創業した伝統を今に受け継ぐ老舗料亭です。近世、近代には、「布袋屋」と書き、岩槻藩主大岡家中の江戸藩邸詰めの武士が岩槻に來ると布袋屋でもてなしたと「日記」に記されています。

・埼玉県営業便覧（明治35年）には、「蒲焼御料理 布袋屋」と記されており、今日では「うなぎ百選2005年春号の名代めぐり」で紹介され今でも鰻料理は人気です。
 ・ネットHP上では明治時代の広告や大正時代の御店や従業員集合写真も掲載されています。 ※048・756・1661

● 酒蔵資料館（鈴木酒造）

清らかな利根川水系である、綾瀬川と元荒川に挟まれた岩槻周辺は、江戸時代から酒造りが行われてきました。鈴木酒造は、明治4年（1871）の創業で、以来140年以上も受け継がれてきた名醸「万両・大手門」等は、今



でも看板酒として肩を並べています。・併設された酒蔵資料館では、古くから伝わる酒造りの歴史的資料や道具の数々・人気浮世絵師・豊原国周が描いた奉納額「酒造図」・永平寺の大僧正に書いてもらった書など貴重な民族資料が展示されています。

遷喬館

●遷喬館は、左記児玉南柯（儒者）が、寛政11年（1799）武家地にある裏小路の一角に開いた私塾で、後に文化2年（1805）藩校となりました。最盛期には梅林を伴った広大な敷地の中に、武芸稽古場・学問の神様菅原道真を祀った菅神廟・南柯の自宅・築山・池泉・観望台なども設けられていました。

・江戸時代、全国には多くの藩校が開校されましたが、現在でも建物が残っているものは非常に少なく、県内では唯一残っているのがこの遷喬館です。

（下段の画像は、児玉南柯の自画像 82才）

●児玉南柯

児玉南柯は甲府にいた豊島家の長男として生まれ、11歳で岩槻藩士児玉親繁の養子となりました。「南柯」は儒者としての名前で、本名は「琮」といいました。16歳で第18代藩主大岡忠喜の御中小姓となり、また向井一太郎のもとで儒学を学びつつ、禪の修行なども積みました。18歳で神田一ツ橋にあった江戸藩詰めとなり、若殿忠要の素読相手を勤め、以後郡奉行・御側用人・御勝手向取締



方など藩の要職を歴任。43歳の時、部下の不正の責任を取り辞職。その後藩主侍読を務め、寛政11年（1799）53歳の時私塾として遷喬館を開校。また文化8年（1811）には、庶民の教育所「郷学、穢穀堂（せんこくどう）」の設立にも援助しています。文政13年（1830）病の為85歳で生涯をおえしました。尚、「南柯の日記」は現在も残っています。

●ご参考Ⅱ明治以降の小学校の歴史

- ・江戸期は、藩士は藩校、庶民は寺小屋・私塾・郷学（こうがく）で一部の者のみが勉強できました。
- ・明治新政府以降の教育施策は次の通り。
- ・明治5年（1872）学制・・・各地に小学校尋常科の設置。
- ・明治19年（1886）小学校令・・・尋常小学校（尋常科4年間義務）と高等小学校（高等科4年間過程）設置
- ・明治33年（1900）改正で高等小学校過程は2年又は4年に
- ・明治40年（1907）改正で尋常過程6年・高等過程2年に
- ・昭和16年（1941）国民学校（初等科6年・高等科2年）
- ・昭和22年（1947）現在の学校教育法施行で新制小学校になりました。

願生寺

・浄土宗の寺院。実相山西方院願生寺と称し、本尊には阿弥陀如来が祀られています。開基は延文2年（1357）、南北朝時代南朝



の中院、定本朝臣私官、久保右近が北朝の勢力に迫られ故郷に還って剃髪したと伝えられています。開山については、大永2年（1522）、圓蓮社寂普上人門入大和尚によって、浄土宗寺院として開創されました。現在の本堂は、江戸時代中期（1700年代）の建造物（今なお残る茅葺屋根）です。

・当寺にある「阿弥陀三尊佛像月待供養板碑」は、上部に日・月と天蓋、踏割蓮華に乗った阿弥陀像を刻んであり、下部に僅かに頭光と

頭部の一部が見えることから、観音・勢至の像を脇侍とした阿弥陀三尊像であり、阿弥陀来迎像と想像されています。

・室町時代から盛んに行われるようになった月の出を待つ民間信仰で、月宮殿におわす月天子を拝み無病息災を願った「月待供養」の板碑と考えられています。

● 日光御成街道岩槻の一里塚

日光御成道は、中山道の本郷追分（東大の西側）を起点として岩淵・川口・鳩ヶ谷・大門・岩槻を経て幸手の日光街道に合流する12里30町（約43km）の脇往還です。

・古くは鎌倉街道と称された古道（低地道）を利用していました。江戸時代の寛永期ころから日光社参にこの道を利用することが慣例となり、道中奉行の支配下におかれました。（高地の道に移動）



・日光社参に利用する為に設けられた特別ルート（脇往還）です。

● 鎌倉街道 中ツ道

関東埼玉地域では、①所沢を通る上ツ道②岩槻を通る中ツ道③千葉県を通る下ツ道の三道がありました。中ツ道は岩槻市内では、「ルート南から北へ」越谷市に隣接する大門宿（貝殻坂）から越谷寄りへと右折。その後「五才川橋」を左折北上し、鉤上・尾ヶ崎・笹久保そして現在の越谷岩槻線に合流。続いて太田小学校・時の鐘・渋江口を通り、現御成道に沿って蓮田市に入り直ぐに右折、「高野の渡し」を経由し幸手市に至るというルートでした。

● 郷学戩穀（せんこく）堂の碑

・郷学戩穀堂は、文化8年（1811）11月、久保宿町の藩医篠崎道鐸（しゅうたく）の邸内に、岩槻藩の儒者児玉南柯の教えを受けた道鐸の子、学司（がくじ）によって開業された。・戩穀とは悪い穀物を作らないという意味で、このことから、良い人物を育成するということを示している。掟書によれば、幼童の道德教育が中心

であった。

・郷学とは、藩校と寺小屋の中間に位置する教育機関であり、県内



では遷善館（久喜市）とともに江戸時代の教育制度を示す貴重な史跡である。この石碑は、文化9年に猷毅堂の側に立てられたもので、猷毅堂開設の経緯や教育目標などが記されている。（岩槻市教育委員会）

● 時の鐘

「岩槻に過ぎたるものが二つあり、児玉南柯と時の鐘」と言われた程の立派な鐘です。寛文11年（1671）岩槻城主阿部正春（初代高力清長から数えて第7代城主）が、武家屋敷と町人町境の出入口の一つ渋江口に設置し、城下の人々に時を知らせました。

・ところが、その後にはひびが入り、音色が悪くなった為、享保5年（1720）城主永井直陳が改めて造り直しました。改鑄した鐘は、形や音色がとても良く、四里四方に響いたと伝えられています。

・以後、現在に至るまで美しい音色が市民に時を知らせて来ました。旧藩士の方が、朝夕6時に鐘を撞いていましたが、平成13年に自動化されました。

大岡忠光 木像



・埼玉県内の城下町で歴史ある鐘が現在も残っていますが、行田の再鑄が宝暦14年（1764）、川越の再鑄が明治27年（1894）と言われ、岩槻の鐘が一番古いこととなります。

・時の鐘の隣には大きな銀杏の木（市指定の保存樹木）があります。このイチヨウは、雄株で、明治29年（1896）岩槻藩主大岡忠光侯（9代將軍家重公の側用人で岩槻藩第17代藩主）の拝礼式（菩提寺・龍門寺）の際に、九条道孝公爵が記念に植樹したものです。

9代將軍徳川家重



● 岩槻城 大手口・大手門跡

三の丸跡

・往時大手門の外には、三日月堀・土橋・大手門・隅櫓があり、岩槻城跡でもこの辺りの地形が当時の面影を一番残している岩槻八景の一つ「鶴首夕照」を描いた場所です。特に空堀の深さは見事です。

・「鵜首夕照」の絵図は、岩槻城の三の丸大手口が描かれている。左隅に岩槻会所、中ほどに三日月堀その右上に冠木門、登城する侍、大手門、左上に三の丸西櫓、右下に三の丸左櫓が描かれています。

● 武州鉄道

武州鉄道は、明治43年(1910)11月中央軽便電気鉄道として創立し、大正8年(1919)社名を「武州鉄道」と改めました。当初の敷設計画は、本線が川口・鳩ヶ谷・岩槻・幸手・栗橋間、支線が鳩ヶ谷・越谷間でした。大正13年蓮田・岩槻間が開通し、昭和3年浦和大門まで延長開通、昭和11年には川口市神根まで延長開通しましたが、省線に接続することなく、昭和13年(1938)開業からわずか14年間で廃線となりました。この時車両や資材は小名浜臨海鉄道に引き継がれました。当時の岩槻駅舎は、現在の岩槻中学校・太田小学校の敷地内にありました。また現東武野田線の渋江跨線橋は、武州鉄道を跨ぐ為に造られたものです。岩槻区を南北に走った武州鉄道路線跡や記念碑などが馬込地区等に残っています。

● 浄安寺

当寺院・快樂山浄安寺は、承安5年(1175)開宗され、永正2年(1505)天譽了聞上人により、浄土宗として開山されました。

天譽了聞上人は、信濃国伊那郡高遠に生まれ、禪宗で修行ののち、明応元年(1492)浄土宗大本山増上寺の第5世の住持になられ、当山を開山しました。



徳川将軍が日光社参のおりに通った日光御成街道沿いにあり、古刹に相応しい数々の文化財や寺宝を保存しております。

・「児玉南柯の墓」 漢学の知識を生かした藩内教育に尽力し藩校の前身「遷喬館」の開設や庶民教育所の「毬穀堂(せんこく堂)」の開設にも助力した藩士です。

・「高力清長の墓」 岩槻藩二万石初代藩主で、戦国時代享禄3年(1530)三河に生まれ、幼少時から徳川家康に任せ、数々の武功をあげた藩主として知られています。

・山門は街道にあつた田中口の木戸門を移築されたもので、別名「槍返しの門」とも言われ、次のような逸話があります。

8代将軍吉宗の日光参詣の時、行列が槍を先頭に木戸門にさしかかった。木戸門の屋根が低く、槍を建てたまま通ることが出来ず、屋根を壊すように命じた。しかし時の藩主永井直陳は、供頭に「槍を返して(倒して)お通り下さい」と言つてとうとう槍を返して通らせた。そして後にこの門は浄安寺に移築されました。

・また慶長5年(1600)上杉景勝征伐の時に、徳川家康はここを本陣として一宿したと言われていて、この故を以て朱印62石を賜つたと伝えられています。

・尚、前記「永井直陳」は美濃加茂への転封となり、次代藩主として、9代将軍家重の側用人であった大岡忠光が任用されており、

● 大龍寺

・曹洞宗の寺院。山号は雲居山。岩槻城第3代城主青山伯耆守忠俊公の開基で、一峰麟曹禅師の開山になる由緒ある禅寺、本堂には忠

俊公の位牌が安置されています。

・青山忠俊は、3代将軍家光公のお守役で、酒井忠世・土井利勝と並び「寛永の三輔」と称されました。



・禅師は江戸3ヶ寺の一つ芝青松寺9世で、徳川2代将軍秀忠公の帰依を受け、城中に招請されて、天下にあまねく諸大名を始め多くの僧侶や人々から厚い信頼を受け、その徳が遠近におよびました。忠俊公は、元和6年(1620)この地に堂宇を建立し禅師を拜請して開山したものです。現伽藍は

10年の歳月を経て平成17年に再

建され、寺名に因んだ見事な「龍」の彫刻が随所に施されています。

・境内奥の墓地には、「岩槻人形の祖」と言われる橋本重兵衛の墓があります。重兵衛は江戸後期文化・文政年間(1804〜30頃)、

「裱雛」を考案し、岩槻人形の基礎を創ったと言われ、その後「裱雛」は、関東流の主流として広く普及したと伝えられています。

・本堂裏には、区内有数を誇る樹齢400年にも及ぶスダジイが聳え、寺の歴史の深さを物語っています。

・当寺院にも浄国寺と同じく「岩槻型青面金剛像庚申塔」がござ



● 愛宕神社及び大構跡

・愛宕信仰は、元来防火の神として崇められ、現在でも同社の護符を籠の上に祀る風習があります。愛宕神社には、祭神として迦具土命を祀っています。現在の社殿は、大正12年(1923)の関東大震災で全壊したため、その後再建されたものです。



本殿の側面には、昭和初期まで岩槻で行われた大凧揚げの大絵馬があり、当時の面影を残す貴重な財産です。

・「岩槻城大構」は、戦国時代末期（1587年頃）、豊臣連合軍の攻撃に備えて、岩槻城と城下町の周囲に築かれた土塁と堀の総称で、高さ約4m・幅約8m・全長およそ8kmにわたり築造されたという記録

があります。なお、愛宕神社の社殿は大構の上に建っています。（注）全長は本家小田原城の9kmにも匹敵する大規模なものです。なお、この辺りは城の月見台を兼ねていたことと、愛宕神社の神域のため、通常の高さより高いと言われています。

・大構の規模を示す絵図は、別途配布資料をご参照ください。

● 長谷川家 見世蔵

・明治後期発行の「埼玉県営業便覧」によると、岩槻久保宿には5軒の「白木綿商」があり、この頃名物となっていた「岩槻木綿」の集散地として栄えていたと伝えられています。長谷川家は江戸時代から白木綿問屋を営んでいて、近在農家の副業として生産された手

機織りの木綿を買い集め、東京の間屋に卸すという中継ぎ商を行っていました。



・明治10年（1877）頃に初代の長谷川宗七氏が、火災・盗難防止のためにこの土蔵を建てたことが、昭和56年（1981）に改装修理した時、棟札に書かれていたことが明らかになりました。

現存する土蔵としては区内でも貴重なものです。

・建物内には、摺り揚げ戸（現在のシャッターの原形）、箱階段、昔の電話室、総檜の神棚、奥の居間との仕切り扉は、30cm厚の観音開き扉で重厚な作り

に驚かされます。関東大震災にもびくともせず、130年の風雪に耐えて威風堂々たる城下町らしい建築美は地域の大切な遺産です。

・平成20年度「さいたま市景観協力賞」に選定されました。毎年3月のまちかど難めぐりには、一般公開されています。

[歴代の岩槻城主]

戦国時代(道灌没後)

太田道灌(資長)の没(1486)後、太田氏は江戸系太田家と岩付系太田家に分かれました。
江戸系は道灌の実子、資康の子孫であり一方の岩付系は道灌の養子、資家の子孫です。
1457 長禄1 太田道真(道灌の父)／太田道灌……「築城道灌説」
太田氏(資家・資頼・資時・資正・氏資)・後北条氏(氏房)

江戸時代

岩槻藩は、秀吉の小田原攻めで後北条氏が滅亡し、天正18年(1590)に徳川家康が関東入国した当初から、明治4年(1871)のと廃藩置県までの約280年を通して、9家の譜代大名が交代しつつ配置されてきました。これらの大名の大半は、「三河譜代」と呼ばれ、古くから徳川氏に仕えて家康の覇業を支える中心的な働きをした藩祖を持ち、江戸幕府成立以後は、老中や側用人など將軍側近・幕府幹部として登用され、活躍した藩主が多いのが特徴です。

(○に数字は、岩槻藩歴代藩主の順)		(岩槻藩後の転封先)
1590	天正18 高力氏(①清長②・忠房)	浜松藩⇒島原藩⇒改易 (※島原の乱の後)
1620	元和6 青山氏(③忠俊)	大多喜藩⇒改易
1623	元和9 阿部氏(④正次・正澄・⑤重次・⑥定高・⑦正春・⑧正邦) 以降福山藩にて(正福・正右・正倫・正精・正弘……)丹後宮津藩⇒福山藩	
1681	天和1 板倉氏(⑨重種)	信濃坂木藩
1682	天明2 戸田氏(⑩忠昌)	佐倉藩
1686	貞享3 松平氏(⑪忠周)	丹波出石藩
1697	元禄10 小笠原氏(⑫長重・⑬長熙)	掛川藩
1711	正徳1 永井氏(⑭直敬・⑮尚平・⑯直陳)	美濃加納藩
1756	宝暦6 大岡氏(⑰忠光・⑱忠喜・⑲忠要・⑳忠烈・㉑忠正・㉒忠固・㉓忠恕	
1871	明治4 廃藩置県	・㉔忠貫)

※藩主石高は多くが2万石～5万石ですが、阿部時代が最高で9万9千石。

特に著名な大名について(補足)

阿部家について

- 上記④正次の父、阿部正勝は、家康(当時6歳)が今川人質時代からの近習(阿部8才)の一人(他に著名な者は石川数正・鳥居元忠)です。後に鳩ヶ谷藩藩主となりました。
- 三代將軍家光死去に際し、上記⑤重次は元老中堀田正盛らと殉死(追い腹)しました。…後日、保科正之より「追い腹禁止令」が出されました。
- 阿部家(本家・分家)は、全国諸藩の中で最多12人の老中をだす譜代の名門。(徳川時代の老中就任は全部で175人)
- 殊に福山藩へ転封後、正勝から数えて第11代藩主・正弘は27歳で老中首座となり過激な攘夷論者を懐柔、開国路線に舵を切った人物。
尚、阿部正弘没(1857)後、1858年大老に就任したのが井伊直弼。
(注)「大老職」は、非常勤職で酒井・土井・井伊・堀田の4家+柳沢吉保のみ(合計13人)

第⑰大岡忠光について

大岡家は家康・秀忠に仕えた旗本大岡忠吉の四男忠房を祖とし、忠光は享保9年(1724)將軍吉宗の嫡男、家重の小姓となり、以後一貫して家重の側近として活躍した。延享2年(1745)家重が第9代將軍に就任すると、言語不明瞭な家重の言葉を理解できる唯一の家臣として重用され、宝暦元年(1751)、上総国勝浦城の1万石の大名となる。次いで宝暦4年(1754)に若年寄、1756年には側用人となり、1万石加増され2万石で岩槻城主となりました。
尚、南町奉行で著名な大岡忠相とは姻戚関係に当たります。

「岩槻市の歴史年表」

時代	西暦	年号	主な出来事	
原始・ 古代	約1万5千年前		石器だけで生活する人々の痕跡が残る	
	約5千年前		市内各地に貝塚が形成される	
	約4千年前		真福寺貝塚(国史跡)が形成される	
	400～800年頃		市内各地に多くの集落が営まれる	
	500年頃		つかのこし古墳が作られる	
			久伊豆神社は、この頃勧請されたといわれる	
	710年頃		平城京遷都。この頃、市内の大半は武蔵国埼玉郡に、川通り地区は下総郡葛飾郡に属す	
	794年頃		平安京遷都。慈恩寺はこの頃開山されたといわれる	
	1100年頃		岩槻周辺で渋江氏、柏崎氏等の武士団現れる(武蔵七党の内、野与党の一族)この頃、岩槻周辺に太田庄(慈恩寺地区)、下河辺荘(川通地区)が成立し、旧埼玉郡は国衙領埼玉西郡となる	
中世	1179	治承4	源頼朝が初めて武士の政権を樹立する(後の鎌倉幕府)。この頃鎌倉幕府が鎌倉街道を整備する 岩槻周辺には東北方面への街道(奥大道おくだいどう)が通る	
	1192	建久3	源頼朝が征夷代将軍となる	
	1336	建武3	室町幕府成立。関東には鎌倉府が置かれる	
	1382	永徳2	史料に初めて岩付(岩槻)の名が現れる。「長谷河親着到状」という古文書。	
	1454	享徳3	享徳の乱(きょうとくのらん) ～文明14年(1482)まで	
	1457	長祿1	この頃岩槻城が築かれたという	
	1474	文明6	渋江郷の泰次という鑄物師制作の鰐口が大光寺に隣接する香取社に寄進	
		1560	永祿3	山王二十一仏板碑(常福寺)
		1587	天正15	この頃岩槻城新曲輪や大構が作られる
		1590	天正18	岩槻城落城。後北条氏滅亡。徳川家康家臣・高力清長が岩槻城主となる
	近世	1603	慶長8	江戸幕府成立
		1617	元和3	幕府将軍の日光社参が開始され、岩槻城は将軍の泊城となる
		1629	寛永6	荒川の流路変更。旧路は元荒川となる
1671		寛文11	時の鐘が設置される。1720年(享保5)改鑄される	
1767		明和4	明和事件。元岩槻藩士・山県大弐等が死罪となる	
1799		寛政11	児玉南柯(なんか)が私塾遷喬館を開設する。1811年(文化8)頃藩校となる	
現代		1868	慶応4	明治維新
	1871	明治4	廃藩置県。岩槻藩は岩槻県となり、後に埼玉県に合併	
	1873	明治6	岩槻城廃城	
	1875	明治8	市内に小学校が設置される	
	1914	大正3	岩槻町などに電灯がとる	
	1924	大正13	武州鉄道岩槻・蓮田間が開通する	
	1929	昭和4	総武鉄道(現東武鉄道) 大宮・粕壁間が開通する	
		1938	昭和13	武州鉄道廃止
		1941	昭和16	太平洋戦争始まる
		1945	昭和20	ポツダム宣言受諾
		1954	昭和29	1町6村が合併して岩槻町となり、ついで市制を施行して岩槻市となる
		1972	昭和47	東北自動車岩槻・宇都宮間が開通する
		1985	昭和60	岩槻市の人口が10万人を突破する
		2005	平成17	さいたま市と合併(岩槻区となる)



岩槻城（黒門）

参考資料

NPO 法人 越谷市郷土研究会資料

来て見て魅せる城下町いわつき

絵図で知る岩槻城と城下町

岩槻散策マップ

岩槻市文化財案内マップ

各寺院・神社・史跡説明のパンフレット・HPの説明文及び画像を使用

岩槻藩の殿様

岩槻城と町 まちの歴史

旧鎌倉街道探索の旅 中道編

阿部正弘

さいたま市岩槻区役所

さいたま市岩槻区役所

城下町岩槻歴史散策実行委員会

岩槻市教育委員会

さいたま市立博物館

さいたま市立博物館

小泉 功・花野井均・菊池 丕

岡田義明の共著

芳賀善次郎著

福山市教育委員会